

令和8年度庁議報告事項	
第6回庁議（2026年6月23日）	地域支えあい推進部介護保険課 健康福祉部 福祉推進課 健康福祉部 障害福祉課

【件名】

令和7年度(2025年度)健康福祉サービス等に関する意識調査及び意向調査の実施結果について

【要旨】（目的・内容・対象・時期・今後の方向等）

1 目的

健康福祉施策等に係る区民等の実態ニーズを把握し、今後の事業の見直し・改善、目標の達成度を測る指標として活用するとともに、健康福祉・介護保険・障害福祉サービスの利用実態や今後の利用意向等を把握し、地域福祉計画、成年後見制度利用促進計画、スポーツ・健康づくり推進計画、高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画、認知症施策推進計画並びに障害者計画、障害福祉計画及び障害児福祉計画の検討に資することを目的としている。

2 調査の概要

次のとおり、「健康福祉に関する意識調査」、「高齢福祉・介護保険サービス意向調査」、「障害福祉サービス意向調査」の3調査を実施した。

調査名		調査対象者	調査標本数	有効回収数 (回収率)
健康福祉に関する意識調査		18歳以上の区民 (基準日:令和7年8月1日)	3,000人	1,090人 (36.3%)
高齢福祉・ 介護保険サ ービス意 向調査	高齢者調査 (介護予防・日常生活圏 域ニーズ調査)	65歳以上の区民(介護予防・日常生活支援総合事業対象者及び要支援1・2認定者を含む)。ただし、要介護認定者を除く (基準日:令和7年10月1日)	3,000人	1,810人 (60.3%)
	介護サービス利用調査 (在宅介護実態調査)	要支援1から要介護5までの認定を受けている区民。ただし、施設入所者を除く (基準日:令和7年10月1日)	3,000人	1,687人 (56.2%)
	ケアマネジャー調査	区内及び隣接区の居宅介護支援事業所で区民のケアプランを10件以上扱っている事業所に所属するケアマネジャー (基準日:令和7年10月1日)	250人	141人 (56.4%)

障害福祉サービス意向調査	障害者調査	身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳を所持している区民及び難病等により障害福祉サービスを利用する区民。ただし、施設入所支援の利用者を除く (基準日:令和7年8月1日)	1,500人	682人 (45.5%)
	施設入所者調査	身体障害者手帳、愛の手帳を所持している障害者のうち施設入所支援を利用している中野区の給付対象者 (基準日:令和7年8月1日)	170人	135人 (79.4%)
	発達支援等調査	0歳から18歳までの発達支援の対象児童及び身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳を所持している児童 (基準日:令和7年8月1日)	650人	355人 (54.6%)

3 調査期間

(1)健康福祉に関する意識調査、障害福祉サービス意向調査

令和7年9月19日～10月10日

(2)高齢福祉・介護保険サービス意向調査

令和7年11月14日～12月5日

4 調査方法

郵便配付、郵便回収またはウェブ回答

5 調査結果

前回調査(令和4年度)結果と比較し、変化が大きかった項目

(1)健康福祉に関する意識調査

①近所とのつきあいの程度については、「困っているときお互いに相談したり助け合ったりする等、親しくおつきあいしている」が80歳代以上で24.5%と10.7ポイント増加した。また、「つきあいがほとんどない」が30歳代で39.4%と9.3ポイント増加した一方で、40歳代で17.1%と9.6ポイント減少した。

②適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践しているかについては、「いつも気をつけて実践している」と「気をつけて実践している」を合わせた＜実践している＞が20歳代以下で46.2%と12.9ポイント減少した。

③地域の救急医療体制については、「整っているとは思わない」が、全体で8.6%と10.4ポイント減少した。

④ヘルプマークの認知度については、「ヘルプマークの意味を含めて知っている」が67.2%と

12.3ポイント増加した。特に、50歳代で69.4%と21.6ポイント増加した。

(2) 高齢福祉・介護保険サービス意向調査

①運動器機能の低下リスク該当者について、要支援2における割合が、前回と比べ、19.5ポイント増加した。

②介護を受けたい場所として「自宅」と回答した人が、前回に比べ全体では3.8ポイント、要介護3～5では17.6ポイント増加した。

③施設等への入所・入居については、「検討していない」の割合が、前回に比べ、全体では14.5ポイント、要支援1～要介護2では5.4ポイント、要介護3～5では18.1ポイント増加した。また、全体での割合は73.1%となっている。

④人生会議(ACP:アドバンスケアプランニング)について、「人生会議(ACP)の意味も含めて知っていた」が16.9ポイント、前回に比べ増加した。⑤業務遂行上の問題として「文書の作成等事務処理に追われる」が前回同様、最も高くなっている。また、「ケアマネジャー業務の範囲が明確でない」が前回に比べ、14ポイント増加した。

(3) 障害福祉サービス意向調査

①障害者が働くための環境整備は、「自分の障害に合った仕事があること」が51.2%で、前回より6.6ポイント増加し、「職場に適切な助言や指導、配慮をしてくれる人がいること」が38.9%で、前回より5.5ポイント増加した。

②障害者差別解消法の認知度は、「名前は知っている」が16.9%で、前回より6.7ポイント減少し、「知らない」が70.2%で、前回より8.2ポイント増加した。

③施設入所者が今後生活したいと考える場所は、「現在のように、入所施設で暮らしたい」が最も高く70.4%で、前回より20.4ポイント増加した。

④発達支援における充実してほしい施策・サービスは、「子どもが安心して利用でき過ごせる居場所」が54.1%で最も高く、次いで「お子さんの成長に伴った就園や就学の相談」、「利用できるサービス等情報の発信」、「より専門性が高い発達等の相談」が5割台となっている。

6 今後の予定

調査結果を区ホームページに掲載するとともに、調査報告書を図書館に備え、区民の閲覧に供する。